

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年4月15日予定

(%) 事業所名 吹田市立こども発達支援センター杉の子学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	81%		・間仕切りなど使用してスペースを分ける。 ・ホールや園庭をクラス間で調整を行って使っている。	
	2	職員の配置数は適切である	81%		・配置内でできるかぎりの業務を実施している。療育内容により全体で応援体制をとっている。	病欠など突発時に代替が見つかりにくい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%		・場面や児によって視覚支援(写真・絵カード)を行っている。 ・人的環境(声かけが多くなりすぎない。適切な大人の数)に気をつけている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%		・パーテーションを利用し落ち着ける場所を工夫している。 ・コロナ対策を全体で確認実施している。 ・業者による遊具点検を定期的に行っている。	・施設の年数がたっているので安全点検をしながらメンテナンスをしていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	81%	11%	・給食は給食反省で不評だった内容については食べやすいように工夫している。 ・クラスの療育は日々のクラスタイムでその日の振り返りや、今後の方向性など話し合っている。カリキュラム会議で討論しクラスだけでなく全体で療育を考えている。	・職員全体で意識できるように、話し合い、振り返りを大切にしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		・年に一回、保護者の自己評価アンケート実施 ・保護者会からの要望書をもとに話を聞かせていただく。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%		・自己評価をホームページで公開している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%		・感染症対策について大阪府から看護師によるラウンドがあり、園での感染症対策の評価を受け、ペーパーの設置の仕方など環境を改善した。	・今後も外部評価の機会を活用していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%		・専門職と連携して年間で計画的に研修を行っている。アンケートを取りより学びたい内容で充実した。 ・保育幼稚園室の研修に意見を出し、参加している。 ・コロナ下での研修のやり方を工夫(密を避け時短で数回に分けるなど)	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%		・心理・ST・OTと連携しこのアセスメントを行っている ・個別支援計画の様式をわかりやすく検討した。	・新しい個別支援計画を利用して改善点があれば検討していく
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	89%	11%	アセスメントシートの活用の仕方を検討中 アセスメントシートの利用 アセスメントシートを活用して計画を作成している	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%		・クラス会議を持ち立案している ・担任だけでなく、フリー職員・専門職と相談し進めている	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	100%			
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%		・給食業務は事前確認し事故のないように注意して提供。 ・前日の夕方、当日の朝の時間を利用して打ち合わせをしている。療育案を記入するフォーマットも活用している。デイリー(計画書)を作成し担任間で共有するようにしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%		・給食業務は当日の作業上の振り返りと翌日の打ち合わせの時間を取っている。 ・夕方の時間の利用し、クラスの話合いの時間を確保し、振り返りを行っている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	92%		・療育会議(前期・後期)でモニタリング、評価している。 ・期ごとの個別支援作成時にクラスでモニタリングし計画を見返している。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	92%		・モニタリング、ケース会議が開かれるときは子どもの姿をわかっている職員が参画している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	81%		定期的にシステム会議を持ったり、連携をしている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	81%		医療機関とも連携したり医療的ケアの進め方の情報共有をしている	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	81%		・主治医の連絡体制を整え指示書に従いケアを行っている	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%		・施設内で実施していることを就学先に説明している ・施設間の連携をしながら進めている	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%		職員がかかりながら就学児の学校見学、体験(地域と支援学校の実施)をしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%		・他の児童発達支援の見学 ・事業所連絡会に参加 ・事業所からの見学、研修。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	14%	86%	コロナで今年度は難しかったが、交流できるように努力を怠らぬよう交流圏と連携をとっている	少しずつ緩和されているので工夫しながら再開していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	84%		吹田市療育等関係機関連絡会や福祉協議会に参加している	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		ノートなどで悩みが書いてあればタイムリーに対応できるように心がけている。 ・個別支援以外にも懇談を受けている ・個人懇談3期 個人懇談、日々のノート、電話対応 クラス保育参加、交流会、懇談会なども実施している。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%		今年度ペアレントプログラムを前期・後期で実施	来年度も実施していく。兄弟見守りありで実施する	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%		入所前面接で説明を行うとともにその都度必要な時に伝えている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%		入園時、懇談時に個別支援計画を見せて説明	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%		・ノートなどで悩みが書いてあればその都度対応。個別支援以外にも懇談を受けている。 ・ノート、電話で対応	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%		・コロナで減っているが保護者会行事(秋祭りなど)協力しながら行っている。	保護者会と連携を取りながら今後も行事や療育を進めていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		・園だより・クラスだよりで発信している。 ・交流会で 活動やねらいについて話してきた	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%		・園だより・クラスだよりで発信している。 ・交流会で 活動やねらいについて話してきた 鍵のかけ忘れや、カメラの取り扱いのルールが抜けないように声を掛け合って点検をしている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	35%	57%	地域に買い物に行ったり、交通機関を使ったり地域の人と交流を持つようになっている。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%		・給食事故の無いようマニュアルを保育所等に準じたものを作成している ・センターで不審者訓練を実施 ・感染症対応・人工呼吸、AED訓練を行っている	年間計画で訓練内容を検討して実施していく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%		・備蓄点検、職員の連絡訓練など定期的に行っている ・地震を想定して避難訓練を行っている	非常災害マニュアルを作成中
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	37 100%		・4月に全体で確認周知、対応がわかるように個人の緊急ファイルを作っている	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	100%		・看護師と連携して指示書に基づき給食提供をしている。 ・月1回のアレルギー会議で園と保護者で確認	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%		今年度センターに虐待委員会を設置 委員会が中心に1年間の計画を作成	振り返りや事例検討をして話しやすい環境を作っていく
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%		・身体拘束についての取り決めを虐待防止委員会で確認をした。 ・保護者、職員、専門職と話し合い、期間を決め同意書をいただき進めている。	・センターでもケースを検討しながら進めていく

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。